

領土・主権に関する史料収集(これまでの成果について:尖閣諸島)

2020年6月15日

公益財団法人日本国際問題研究所

日本国際問題研究所では、領土・主権・歴史の分野において、調査研究及び対外発信事業を実施するため、2017年に「領土・歴史センター」を設置しました。同センターでは、①我が国の領土・主権・歴史に関する国内外の史料の収集・整理・対外発信等、②同分野に関する国内外での公開シンポジウムの実施、及び③同分野に関する調査研究の実施等の事業を展開しています。

このうち、領土・主権に関する国内外の史料については、領土に関する専門家の方々と協力をしながら、史料の収集・整理・分析を進めています。特に、諸外国の認識に関する史料を重点的な収集課題としています。

いしみのぞむ長崎純心大学准教授は、当研究所の依頼に基づき、2018年から2019年にかけて複数回、英国、オランダ及び米国などにおいて史料収集を行いました。

同准教授に依頼してこれまでに収集した成果について概要をとりまとめたところ、概略は以下のとおりです。いしみのぞむ長崎純心大学准教授が執筆した詳細な史料解説及び分析については、別紙(https://www.jiia.or.jp/jic/2020/06/15/pdf/20200615pressrelase_senkaku_attached.pdf)をご覧ください。別紙の解説及び分析については、執筆者の個人的見解であり、日本国際問題研究所の見解を代表するものではありません。

(別紙の執筆者)

- ・ 史料群①: 明治18年、上海報道「台湾の東北の島」は尖閣ではなかった
..... いしみのぞむ長崎純心大学准教授
- ・ 史料群②: 三浦按針の朱印船は尖閣周辺海域を通航
..... いしみのぞむ長崎純心大学准教授

(照会先)

(表紙及び「領土・歴史センター」事業について)

日本国際問題研究所 特別研究員 齋藤 康平

電子メール: saito@jiia.or.jp 電話: 03-3503-7794 (@を半角に)

(別紙について)

いしみのぞむ

長崎純心大学 文化コミュニケーション学科 准教授

公務電子メール ishiwi@n-junshin.ac.jp (@を半角に)

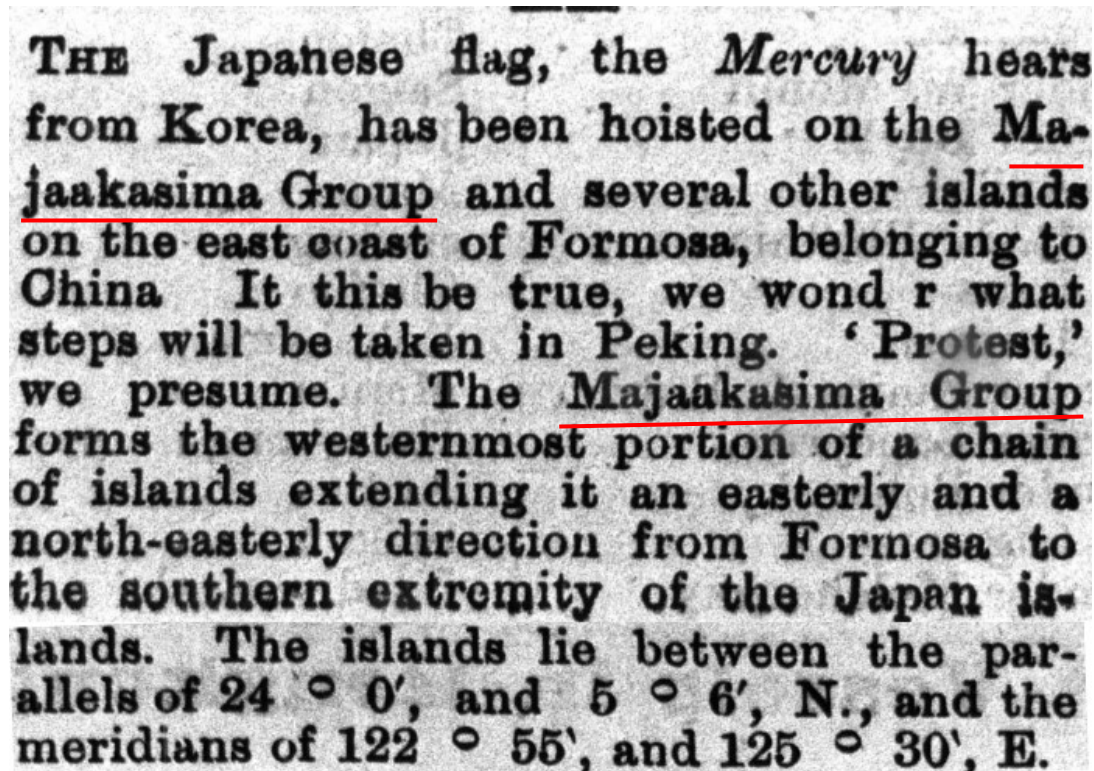
電話 090-5084-7291

(史料概略)

史料群①: 明治18年、上海報道「台湾の東北の島」は尖閣ではなかった(別紙該当部分執筆者: いしみのぞむ長崎純心大学准教授)。

明治18年(1885年)、すなわち明治28年(1895年)の尖閣諸島編入の9年あまり前に、上海の新聞『申報』で「台湾の東北側の島」に日本旗が掲げられた旨が報道され、既に尖閣諸島について声を上げていたというのが中国側の中心的主張の一つです。『申報』記事は上海のイギリス人による英字紙(「上海マーキュリー」紙)の報道から編訳したのですが、英字紙の原文は散逸しています。今般、いしみのぞむ長崎純心大学准教授は、調査(※1)の結果、「上海マーキュリー」紙に掲載された原文に近い文面と思われる転載先(画像A 1885年9月9日付け「The China Mail」紙等)を発見し、また英国においても関連報道(画像B 1885年10月31日付け「The Manchester Guardian」紙等)を発見しました。いずれも尖閣諸島ではなく、宮古八重山諸島について報道したとみられます。

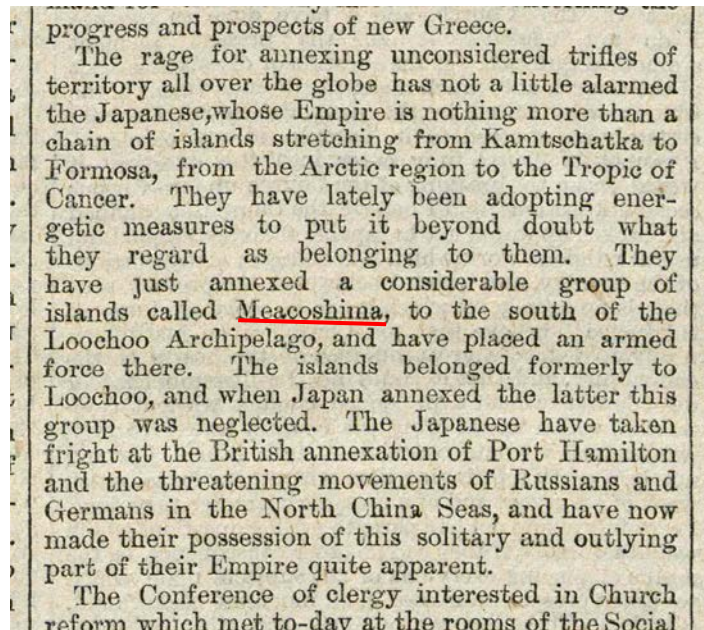
画像A (1885年9月9日付け「The China Mail」紙第3面。上海マーキュリー紙を引用)



THE Japanese flag, the *Mercury* hears from Korea, has been hoisted on the Majaakasima Group and several other islands on the east coast of Formosa, belonging to China. It this be true, we wond r what steps will be taken in Peking. 'Protest,' we presume. The Majaakasima Group forms the westernmost portion of a chain of islands extending it an easterly and a north-easterly direction from Formosa to the southern extremity of the Japan islands. The islands lie between the parallels of 24 ° 0', and 5 ° 6', N., and the meridians of 122 ° 55', and 125 ° 30', E.

大英図書館所蔵 (同館製作マイクロフィルム MC1322)

画像B (1885年10月31日付け「The Manchester Guardian」紙第7面)



大英図書館所蔵(British Library System Number:013899290 Newspapers: 358-35191)

(※1)國吉まこも氏(尖閣諸島文献資料編纂会研究員)の指摘によると、1895年9月18日付東京日日新聞や1885年9月22日付の大阪朝日新聞などが、上海マーキュリー紙そのものを引用して、「Majaakasima(マジーカシマ)群島」(東京日日新聞)又は「マヤアカ島(宮子島のことか)の群島」(大阪朝日新聞)に旗をたてたと報じています。本件調査は国内紙の報道状況を踏まえ、外国紙の報道状況について更なる調査を行ったものです。中国紙・英国紙による報道状況が把握されるとともに、本件報道については複数の経路で類似の情報が伝達されていたらしいことも判明しました。

史料群②: 三浦按針の朱印船は尖閣周辺海域を通航(別紙該当部分執筆者: いしゐのぞむ長崎純心大学准教授)。

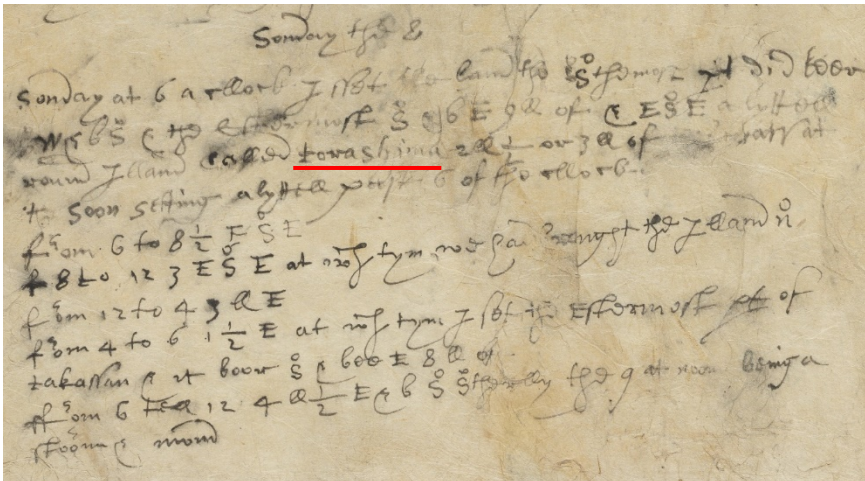
いしゐのぞむ長崎純心大学准教授は、2018年2月と9月の英国での調査で、オックスフォード大学が所蔵する三浦按針(ウィリアム・アダムス)の朱印船の航海日誌原本を高精度撮影するとともに、船員の日誌も撮影しました。日誌中には航海の途中で望見した島の一つとして、当時の尖閣諸島の名称と同じ「トリシマ」と思われる名称が記載されています(画像C)。当該島が尖閣諸島そのものか、あるいは台湾北方諸島の一つであったにせよ、三浦按針らの朱印船は幕府の朱印状を受けて尖閣周辺海域を自由に航行することができたことを示しています。また、日本の古文書には、尖閣諸島が、朱印船貿易の複数の経路及び福建琉球航路の航路上の目標として活用されていたことが記載されており、三浦按針の日誌の内容は、これを裏付けるものです。さらに、朱印船貿易のうち、台湾海峡を通る航路では、明国沿岸島嶼を通過していましたが、それより大陸側に入ることは許されておらず、三浦按針らの航海記録では、それを裏付ける記述もあります。

同日誌の記載内容は、当時の朱印船貿易の航路を示すとともに、尖閣周辺海域を自由に航行

することができたことを示しています(※2)。

(※2) 本史料は日本と尖閣諸島の歴史的なつながりを示すものではありませんが、これをもって1895年の閣議決定に先立って尖閣諸島に対していずれの国の支配も及んでいなかったことが確認されたという日本政府の立場と相容れない主張を意図するものではありません。

画像 C 三浦按針航海日誌, Torashima 部分



オックスフォード大学所蔵(Oxford University, MS Savile48 folio66)

別紙の18頁の図版五「明国福建海道中軍官董伯起書翰」について原本所蔵者を探しています。ご存知の方がいらっしゃいましたらお手数ですが上記の日本国際問題研究所の問い合わせ先までご連絡ください。